

高知県基本理念

目指すべき人間像
 ・学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち
 ・郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

学校経営理念

- すべての生徒が安全に安心して学び、活動できる学校
- すべての生徒が自分の居場所を見つけ、役割を感じられる学校
- 生徒、保護者、地域、教職員がつながる学校
- 故郷を愛し、故郷の未来を担う若者が育つ学校
- 教職員がワークライフバランスを実感し、仕事に充実感を得られる学校

学校経営方針

- チームとして組織力を高め、全教職員ですべての生徒が安全・安心を感じられるようにする
- 子どもの多様性を理解し、カウンセリングマインドを持って子どもに寄り添う対応
- ICTを活用した新しい学習システムを確立し、未来を見据えた学力保障をする
- 子ども、教職員が地域とつながり、地域の未来を担う視点を持った教育活動
- 感染症等や事故から子どもを守り、常に命を大切にできる教職員集団を目指す

学校教育目標

地域からの熱い思いに応え、高い志を持ち、中高一貫の6年間を熱く語れる魅力ある生徒を育てる。

研究主題

学習の目的に向かって様々な情報から根拠を明確にし、自分の考えや思いを意欲的に表現しあえる発問・学習活動の研究

中期計画<令和(4)年度～令和(6)年度>

	現状<○強みと●弱み>	目標<3年後の到達指標>	行動指針<3年間の取組方針>	評価	検証・評価<3年間の総括>
知	<ul style="list-style-type: none"> ○全国・高知県学力調査において全国、県平均を上回る数値が出せてはいる。 ●学校評価「わかりやすい授業が多い」91.7%、「教え方を工夫している」92.5% ●家庭学習時間の目標が達成できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国・高知県学力調査の結果、平均より10ポイント以上。 ○学校評価「わかりやすい授業が多い」「教え方を工夫している」95%以上。 ○家庭学習時間調査で平日の学習時間を90分以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各調査の結果分析を全教職員で行い対応策の検証と実践。 ○ICTの活用、授業スタンダードの確立、や生徒指導の三機能を意識した授業の構築。 ○家庭学習につながる授業での「ふり返り」「まとめ」を確実に挙げる。 		
徳	<ul style="list-style-type: none"> ○特別の教科『道徳』の授業改善に取り組んでいる。授業アンケート平均結果4.7(5点満点)、学校評価「人権や道徳に力を入れている」84.1%。 ●学調質問紙「将来の夢や目標を持っている」75%(全国比-3.5)、自尊心と自己肯定感が育っていないことが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳授業アンケート5点満点。学校評価「人権や道徳に力を入れている」90%。 ○全国学力学習状況調査生徒質問紙「将来の夢や目標を持っている」90%以上。 ○隠れたカリキュラムの実現ができ、発達支持的生徒指導ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「考え、議論する道徳」の授業実践と自尊心や自己存在感を育む「生徒指導の三機能を働かせた授業づくり」。 ○望ましい「隠れたカリキュラム」の実現と発達支持的生徒指導の推進。 ○6年間の探求学習を通じたキャリアプランの構築。 		
体	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が適切な生活リズムを心がけるよう、保健だより等で啓発ができています。生活習慣調査、起床(6:30)62%、就寝(23:00)68%、睡眠(7h)78%、朝食97% ●全国調査において体格では全国、県を上回ったが、実技で男女ともに柔軟性、瞬発力、持久力、が下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣調査においての目標値、6:30までに起床80%、23:00までに就寝80%、7時間の睡眠90%、朝食をとる100% ○全国、高知県の体力・能力調査において体格、実技で男女ともに全国、県の平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健体育、各教科の授業、特別活動等で横断的な啓発と、健康アンケート等を活用して課題把握しながらより良い基本的生活習慣の確立を図る。 ○体育の授業で継続した体力づくり、学校トレーニング室を活用しての体力向上。 		
横断	<ul style="list-style-type: none"> ○各種アンケートは計画的に実施し、スピード感を持ってチェックし助言をもらいながらきめ細かい支援に努めている。 ●Q-Uアンケートでは要支援群の子どもは減ったものではない。 ○毎月サポート委員会をSC、SSWも交えて実施し、全教職員、授業等に係る高校教員で情報共有をして対応できた。 ○授業だけでなくあらゆる場面でICTの活用がされてきている。 ●コロナ禍で学校自主防災組織NDSの活動が難しい状況だった。 ○校内研修が充実してきたことから職員間の同僚性が高まった。 ●機械警備になったことから長時間勤務者は減ったが、大会や遠征等で部活動における勤務時間が長くなり、大変な状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種アンケートの活用 ・Q-Uアンケート(年2回)、第2回結果から不満足群、要支援の子どもが0 ・学校生活アンケート(年5回) ・健康アンケート ・不登校生徒が0になる。 ○全教職員での情報共有 ・生徒サポート委員会(毎月) ○授業だけでなくあらゆる場面でICTの活用 ○部活動において週2日の休養日の実施 ○防災教育・安全教育を通して学校自主防災組織NDSとの連携 ○長時間勤務対象者0 ○教職員間の同僚性を高め、不祥事を起こさないよう管理職、教職員間のコミュニケーションがとれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種アンケートを活用したスピード感のある生徒支援。 ○望ましい「隠れたカリキュラム」の実現。 ○「SOSの出し方に関する教育」の実施。 ○発達支持的生徒指導の推進。 ○地域との関わり、地域と連動した防災活動、学校運営協議会の活用。 ○部活動指導員事業を活用しての部活動の充実と担当教員の負担軽減。 ○ボイスシャワーを心掛けた教職員間の声掛け。 		

短期計画【知】<令和(5)年度>

前年度からの課題	目標<到達指標>	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
<ul style="list-style-type: none"> ○「めあて」の提示はもとより「ふり返り」「まとめ」の授業スタンダードが確立されつつある。ICTの効果的な活用。 ○全国・県の学力調査の結果、平均を上回っているが、差が詰ってきている教科があり、分析をしながらの対策の必要性がある。 ○R4年度学校評価アンケート ・「わかりやすい授業が多い」91.7%、「教材や教え方を工夫している」92.5% ○教員授業アンケート ・「めあて」の提示100%、「まとめ・ふり返りができている」92.7% ・「わかりやすい授業になるように工夫している」100% ・「ICTを活用している」85.7% ○家庭学習時間調査 ・全学年で90分以上の目標は達成できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職の授業参観 ・「めあて」「ふり返り」「まとめ」が行われている。 ・各授業でICTを活用している。 ○全国学力学習状況調査、高知県学力定着状況調査、校内学力テスト 各教科目標値の達成、3年 校内学力テストの結果、250点未満1%以下 ○学校評価アンケート ・「わかりやすい授業が多い」「教材や教え方を工夫している」95%以上 ○教員授業アンケート ・「めあての提示」100%、「まとめ・ふり返りができている」95%以上 ・「わかりやすい授業になるように工夫している」100% ・「ICTを活用している」90%以上 ○家庭学習時間調査 ・全学年で90分以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職による授業参観 ・「めあて」「ふり返り」「まとめ」が行われている。 ・各授業でICTを活用している。 ○全国学力学習状況調査、高知県学力定着状況調査、校内学力テストの結果を各教科で課題分析し、対策について校内研修で共有。 ・教科目標値(全国比) 国語(1・2年+10、3年+5) 社会(1・2年+10) 数学(1年+20、2年+15、3年+10) 理科(1・2年+10) 英語(全学年+5) 3年 校内学力テストの結果 250点未満1%以下 ○校内研修、授業改善プラン、指導主事招聘等を通して授業改善を進め、学校評価アンケートの結果等から検証。 ・「わかりやすい授業が多い」「教材や教え方を工夫している」95%以上 ○教員授業アンケートで自身の授業づくりをふり返り、改善に繋げる。 ・「めあての提示」100%、「まとめ・ふり返りができている」95%以上、「わかりやすい授業になるように工夫している」100% ・「ICTを活用している」90%以上 ○家庭学習時間調査 ・タブレットの持ち帰りなど工夫した課題を提起し家庭学習の定着をめざす。全学年で90分以上 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職 <通年> 研究主 各教科部 <通年> 管理職 <12月> <2月> 進路部 <6月> <11月> <2月> 			

前年度からの課題	目標(到達指標)	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
<p>○組織的に「考え・議論する道徳」を意識し生徒が主体的になる道徳教育の授業展開について深めることができた。また道徳教育についての校内研究の実施、道徳参観日を行うことができた。</p> <p>○「特別の教科『道徳』における授業アンケート平均4.5(5点満点)</p> <p>○学校評価アンケート結果「学校での生活に満足している」97%、「目標を持って生活を送っている」79.7%</p> <p>○生徒サポート委員会を毎月開催し、情報共有・対応の手立てなどを全員で共通認識を持って取り組んだ。</p>	<p>○道徳授業アンケート平均結果で5(5点満点)</p> <p>○学校評価アンケート ・学校での生活に満足している。98%以上 ・目標を持って生活を送っている。90%以上</p> <p>○「SOSの出し方に関する教育」「生徒理解」に関する研修2回以上の実施</p> <p>○サポート委員会の実施</p>	<p>○「考え、議論する道徳」をめざして「生徒指導の3機能を働かせた授業づくり」を意識した授業改善を進め、道徳授業アンケート平均結果(5点満点)で5となる。</p> <p>○望ましい「隠れたカリキュラム」の実現を意識し、子どもたちが安心して過ごせる雰囲気と居場所づくりに取り組み、学校評価アンケートで検証する。 ・学校での生活に満足している。98%以上 ・目標を持って生活を送っている。90%以上</p> <p>○発達支持的生徒指導を進め、教職員のアンテナを高くすること、またスピード感をもって子どもに寄り添うことができるように人権感覚を磨く。 ・「SOSの出し方に関する教育」「生徒理解」に関する研修2回以上の実施</p> <p>○子どもの状況や背景を把握し情報共有すること、中高一貫教育校として中高の教職員が一体となって子どもたちの支援にあたる。 ・サポート委員会(支援会)の定例実施。</p>	<p>道推教師 <9月> <2月></p> <p>全教職員 <通年></p> <p>サポート部 <毎月></p>			

短期計画【体】(令和5年度)

前年度からの課題	目標(到達指標)	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
<p>○生徒が適切な生活リズムを心がけるよう啓発してきたが、コロナ禍で基本的な生活習慣のバランスが崩れている傾向がみられる。生活チェックアンケート、6:30までに起床62%、23:00までに就寝68%、7時間の睡眠78%、朝食をとる97%</p> <p>○全国調査において体格調査では全国、県を上回ったが、実技調査で男女ともに「柔軟性」「瞬発力」「持久力」が下回っている。</p>	<p>○生活チェックアンケートにおいての目標値、6:30までに起床80%、23:00までに就寝80%、7時間の睡眠90%、朝食をとる100%</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査ならびに高知県体力・運動能力、生活実態調査において、男女ともに体格調査、実技調査で全国、県の平均を上回っている。</p>	<p>○保健だより等で保護者・生徒への啓発、保健体育の授業、特別活動等の時間を通して、基本的な生活習慣と心身の健康の大切さを考えさせ、生活チェックアンケートにおいての目標値の達成に取り組む。 ・6:30までに起床80%、23:00までに就寝80%、7時間の睡眠90%、朝食をとる100%</p> <p>○全国、高知県の体力・能力調査において体格、実技で男女ともに全国、県の平均を上回っている。 ・保健体育の授業改善。 ・部活動や地域活動を通しての体力向上。 ・運動部活動指導員の活用 ・本校トレーニング室の有効利用。</p>	<p>養護教諭 全教職員 体育科 部活顧問 <通年></p>			

短期計画【横断】(令和5年度)

前年度からの課題	目標(到達指標)	具体的な取組及び評価指標	担当	中間検証	評価	年度末検証
<p>○Q-Uアンケート ・1年不満足群3名、要支援1名(全国比-18%) ・2年不満足群3名、要支援2名(全国比-18%) ・3年不満足群11名、要支援1名(全国比+2%)</p> <p>○毎月のサポート委員会で情報共有しながら生徒を支援していく。 ・2学期終了時点で不登校生徒、0</p> <p>○全国学力学習状況調査生徒質問紙・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。97.5%(全国比+4.9%)</p> <p>○長時間勤務者は減ったが、部活動での勤務時間が課題。</p> <p>○校内研の充実を図り、同僚性を向上させる。</p>	<p>○各種アンケート ・Q-Uアンケート(年2回)、不満足群、要支援の子どもが0</p> <p>○全教職員での情報共有 ・生徒サポート委員会の実施(毎月) ・不登校生徒が0になる。</p> <p>○学校評価アンケート ・「学校での生活に満足している」100%、「よい学校にしようとする気持ちや雰囲気がある」100%、「悩みや心配事があるとき、教職員に相談している」80%</p> <p>○授業だけでなくあらゆる場面でICTの活用</p> <p>○防災教育・安全教育を通して学校自主防災組織NDSとの連携</p> <p>○長時間勤務対象者0</p>	<p>○望ましい「隠れたカリキュラム」の実現と各種アンケートを活用して生徒支援に取り組む。 ・年2回のQ-Uアンケート結果から不満足群、要支援の子どもが0 ・学校生活アンケート(年5回)、健康アンケート(年2回)</p> <p>○中高一貫教育校の強みである中高の教職員での見守りを進め、全教職員での情報共有し生徒支援の体制を作る。 ・生徒サポート委員会の実施(毎月) ・不登校生徒が0になる。</p> <p>○学校評価アンケートの活用とスピード感ある生徒支援。 ・「学校での生活に満足している」100%、「よい学校にしようとする気持ちや雰囲気がある」100%、「悩みや心配事があるとき、教職員に相談している」80%</p> <p>○授業だけでなくあらゆる場面でICTの活用(授業参観で確認)</p> <p>○防災教育・安全教育を通して学校自主防災組織NDSとの連携</p> <p>○退勤管理システムを利用して長時間勤務対象者0。</p> <p>○管理職、教職員間のコミュニケーションがで</p>	<p>管理職 全教職員 人教主 <通年></p>			